

# 財団ニュース

1998年度第2号（通巻第45号）

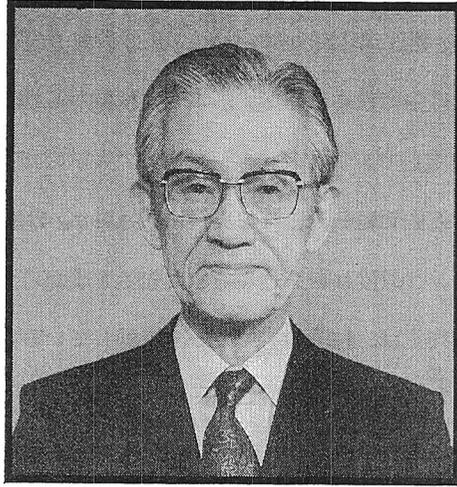
弔 辞 .....	1
1998年度援助一覧表 .....	4
事務報告 .....	7
山田コンファレンス .....	8
人事消息 .....	8



**YAMADA SCIENCE FOUNDATION NEWS**

財団法人

**山田科学振興財団**



## 追悼 神谷宣郎先生

理事 竹内 郁夫

神谷宣郎先生は1999年1月10日に静かに天寿を全うされた。享年85才であった。

先生は山田科学振興財団が1977年に創立された際に財団の理事・評議員として、また1991年からは理事長として、さらに1993年以降は顧問として、過去20余年に亘って本財団の活動と発展に尽力してこられた。

先生は1913年(大正2年)7月23日に東京でお生まれになり、その後東京帝国大学理学部に進学し、植物学を専攻された。幼少の頃から先生は模型作りに熱中し、工学志向が強かったが、その後生物学に対する関心が高まり、進学した旧制東京府立高等学校(現東京都立大学)の植物学の先生の影響もあって植物学科に入学された。大学時代、生物学を専攻する上で語学の必要性を痛感され、ドイツへの留学を志してドイツ語の習得に努められた。大学卒業後間もなく開催された国際会議のドイツ語通訳に応募し、その時に知り合ったベルリン大学のシュプランガー教授の推薦で、日独交換学生に応募し、24才の若さで当時希少価値の高かったドイツ留学の夢を実現された。

1938年、植物細胞学の巨匠であったギーセン大学のキュスター教授のもとへ留学し、充実した留学生活を送っておられたが、翌39年に突如ヨーロッパに戦争の気運が高まり、先生は滞在先の臨海実験所から急遽アメリカ経由で日本に帰国するよう大使館から指示された。留学が中断されることを恐れた先生は、是が非でもアメリカのペンシルバニア大学のザイフリッツ教授の所で研究したいと考え、ニューヨークで途中下船し、それを実行に移された。日米開戦前夜の険しい時期であったにもかかわらず、ザイフリッツ教授は飛び込んできた先生を暖かく受け入れ、先生はここで粘菌と初めて出会われた。やがて先生は、粘菌の中で激しく流動している原形質の流動の原動力を独自に開発した方法で測定することに成功された。この研究は、当時主としての現象の記載に終始していた生物学の分野に定量的な精密科学の方法を持ち込んだものとして高く評価され、アメリカの科学雑誌「サイエンス」に報告されたばかりでなく、「タイム」誌にも写真入りで大きく報道された(1940年)。

日米開戦後、交換船で帰国された先生は東京大学講師に採用された(1942)。ついで、大阪大学理学部に生物学科が開設されるに及んで、先生は教授に迎えられ、35才の青年教授として大阪に赴任された(1949)。その後、先生は大阪大学(～1977)および岡崎国立共同研究機構(1977～79)において、細胞の運動を始め種々の生理現象について、独自の方法を用いて解析され、細胞の生物物理学的理解に大いに貢献された。また、1959年にはウィーンのパブリッシャーシュプリンガーから「原形質流動」という著書を出版された。この書は今日に至るまでこの分野における唯一のモノグラフとして世界的に利用されている。これらの業績に対して1971年に日本学士院賞を受賞され、1981年には学士院会員に選定されている。また、その活発な研究活動は国内・外において高く評価され、プリンストン大学(1962)、ニューヨーク州立大学(1969)、ダートマス大学(1981)およびボン大学(1985)等の客員教授として招聘されている。また、日本植物生理学会会長(1972)、日本細胞生物学会会長(1974)、さらに国際細胞生物学連合の会長として国内・外の学会活動にも大きく貢献された。

先生が無私・無欲の人格者であられたことは万人の認める所であると思われる。先生は極めて自立心の強い方で、他人に依存することは弟子や目下に対しても全くなかった。弟子や後輩の研究指導においても個人の自由や主体性を最大限に尊重され、その成長を暖かく見守っておられた。先生

は自分が若い頃に多くの人から恩恵を受けられたことを、自分はこれまで与えられることのみ多く、与えることが少なかったと述懐されていたが、少なくとも弟子には多くのものを与えられた。

先生の人生にとって最大の痛恨事は最愛の伴侶であった神谷恵美子夫人を早い時期になくされたことであろう。しかし、先生はこのことについて愚痴一つもこぼされなかった。死に臨んで、先生は「死ぬことは自然現象であるから、少しも怖くない」と言われたという。これらの事実は先生が科学者としてのみならず、人間としても偉大であったことを物語っている。

先生が本財団の設立当初からその運営に力を尽くされたことは、私共財団関係者にとってこの上ない仕合わせであった。ここに、御生前に賜った御指導、御厚誼に対して深い感謝を捧げるとともに、心から御冥福をお祈り申し上げる次第である。

+++++ 1998年度 援助一覧表 +++++

研究援助（18件）

推薦学会	代表研究者 氏名・所属	研究主題	援助金額 (万円)
日本生物物理学会	名古屋大学大学院 石島秋彦	膜タンパク質相互作用の1分子レベルでのイメージング	150
日本物理学会	高エネルギー加速器 研究機構 石原信弘	ニュートリノを伴わない二重ベータ崩壊の探索	300
日本生化学会	京都大学大学院 伊藤信行	FGFファミリーに属する新しいシグナル分子の生理的意義の解明	200
高分子学会	大阪大学 上田正則	絡み合い効果による巨大DNA分子の伸長現象のメカニズムの解明	220
日本植物生理学会	明治大学 川上直人	種子休眠性が高まった突然変異体の選抜と、休眠関連遺伝子の単離	300
日本分子生物学会	東京大学 川上浩一	ゼブラフィッシュのストライプパターン形成を制御するF-box/WD40リピート蛋白質の機能解析	100
日本化学会	愛媛大学 小島秀子	結晶相絶対不斉合成の設計	200
日本動物学会	筑波大学 沼田治	分裂面決定と収縮環形成の分子機構	200
日本生物物理学会	早稲田大学 船津高志	シャペロニンによる蛋白質折れたたみ機構の1分子蛍光イメージング	150
日本化学学会	大阪大学大学院 真島和志	希土類金属からの直接合成法による新規希土類錯体の合成と反応性の研究	200
応用物理学会	東京農工大学 森下義隆	AlGaMnAs希薄磁性半導体のMBE成長と物性	160

合計 11件 2,180万円

	代表研究者 氏名・所属	研 究 主 題	援助金額 (万円)
推 薦 研 究	名古屋大学大学院 上 村 大 輔	食虫動物の有する麻酔性物質に関する有機化学的研究	200
	奈良先端科学技術大学院大学 金 光 義 彦	人工元素としての半導体ナノ微粒子：組織化と新機能発現	250
	理化学研究所 坂 口 喜 生	電子スピン操作による多重項分子種間反応の研究	200
	(助)東京都臨床医学総合研究所 佐 内 豊	細胞膜シグナル伝達におけるガングリオシドマイクロドメインの役割	300
	広島大学 佐 野 有 司	ダイヤモンドの同位体地球化学	150
	徳島大学 伏 見 賢 一	超高純度・集積型NaI(Tl)検出器による宇宙暗黒物質の季節変化の研究	340
	東京工業大学 森 健 彦	ハーフフィールドバンドをもつ金属的有機伝導体の物性	180

合 計      7 件      1,620 万円  
 総 計      18 件      3,800 万円

短期間派遣援助（16件）

被 派 遣 者	目 的	渡 航 先	実施年月
大阪大学 江 尻 宏 泰	第13回高エネルギースピ物理国際シンポジウム	ロ シ ア	'98/ 9
静岡大学 関 根 理 香	第9回微粒子と無機クラスターに関する国際シンポジウム	ス イ ス	'98/ 9
東北大学大学院 工 藤 博 司	第4回基礎及び応用物理化学会国際会議 他	ユーゴスラビア	'98/ 9

被派遣者	目的	渡航先	実施年月
一橋大学 三村 徹 郎	植物細胞液胞膜におけるリン酸輸送体の同定	ス イ ス	'98/ 9
大阪市立大学 増 田 芳 雄	生物学における流動と変形および環境に関する国際会議	チェコ共和国	'98/ 9
高エネルギー加速器 研究機構 小 林 正 明	タングステン酸塩結晶に関する国際ワークショップ	イ タ リ ア	'98/10
東京工業大学大学院 村 部 直 之	ホヤ配偶子における自己・非自己認識の解析	イ タ リ ア	'98/10
高エネルギー加速器 研究機構 柴 田 徳 思	ISIS施設における高エネルギー中性子遮蔽実験	イ ギ リ ス	'98/11
分子科学研究所 大 竹 秀 幸	国際励起子会議	ア メ リ カ	'98/11
東京医科歯科大学 安 達 貴 弘	第10回国際免疫学会議	イ ン ド	'98/11
東京工業大学 押 川 正 毅	低次元物性の場の理論的研究	カ ナ ダ	'99/ 2
東京慈恵会医科大学 小 西 真 人	ゴードン研究会議：生体反応過程と医学におけるマグネシウム、43回米国生物物理学会	ア メ リ カ	'99/ 2
東京大学医科学研究所 川 上 浩 一	ゼブラフィッシュの遺伝学と発生に関する第1回欧州ミーティング	ド イ ツ	'99/ 3
京都大学大学院 津 田 鉄 雄	第217回アメリカ化学会年会	ア メ リ カ	'99/ 3
岡山理科大学 豊 田 新	第64回アメリカ考古学会年会	ア メ リ カ	'99/ 3
神戸薬科大学 長谷川 健	1999年度ピッツバーグ会議 他	ア メ リ カ	'99/ 3

+++++ 事 務 報 告 +++++

事 業 日 誌

- 1998. 7. 17 選考打合会
- 7. 18 第2回選考委員会：1998年度研究援助の答申案作成  
第1回臨時理事会：同上答申案の審議（於 薬業年金会館）
- 7. 21 報道関係へ1998年度研究援助概説伝達
- 9. 11 選考打合会
- 9. 12 長期間派遣者研究交歓会（於 薬業年金会館）
- 9. 21 財団ニュース通巻第44号完成発送
- 10. 30 1999年度長期間派遣援助申込締切
- 11. 20 選考打合会
- 11. 30 1999年度来日援助申込締切
- 12. 19 選考打合会
- 12. 22 第21回事業報告書完成・発送
- 1999. 1. 30 選考打合会

+++++ 山田 コンファレンス +++++

山田コンファレンス XLIX, L の開催

回	会 名	会 期	主催責任者	参 会 者
XLIX	Black Holes and High Energy Astrophysics (ブラックホールと高エネルギー天体物理学)	'98. 4. 9 } 12	佐藤 文隆 (京都大学)	日本人 116名 外国人 23名 合計 139名
L	2nd International Symposium on Polyelectrolytes (第2回高分子電解質国際シンポジウム)	'98. 5. 31 } 6. 3	野田 一郎 (名古屋大学)	日本人 164名 外国人 52名 合計 216名

1999年度開催予定山田コンファレンス

回	会 名
LI	International Conference on Strongly Correlated Electron Systems (強相関電子系の国際会議)
LII	International Symposium on Molecular Steroidogenesis (ステロイドホルモンの分子生物学的研究に関する国際シンポジウム)

+++++ 人 事 消 息 +++++

1998年10月 野依良治評議員が文化功労者になりました。

財団法人 山田科学振興財団

〒544-8666 大阪市生野区巽西1丁目8番1号

電話 大阪 (06) 6757局 3311 (代表)

**Yamada Science Foundation**

8-1 Tatsumi Nishi 1-chome, Ikuno-ku

Osaka 544-8666, Japan